

学外実習 (Internship)		4 年・夏季・1 単位・選択 情報工学科・担当 岩田 大志	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (4)	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 D-2(70%), A-2(30%)	〔JABEE 基準〕 (d-2d), (b)	
〔講義の目的〕 企業などにおける実体験を通じて、実践的な技術を学ぶとともに、技術者として必要な適応能力を養う。また今後の学生生活における学習の意義および位置付けを明確化し、将来の進路決定の一助とする。			
〔講義の概要〕 学生の希望と受け入れ企業の状況を勘案して、実習先を決定する。 夏季休業期間中に 5 日・30 時間以上、実習先企業担当者の指導のもと、実習を行う。 実習中に担当教員が実習先企業を訪問し、実習の状況を視察する。 実習終了後、速やかに実習修了証明書、実習業務日誌、実習報告書、単位認定申請書(学科主任宛)を提出する。			
〔履修上の留意点〕 学外実習の意義と目的を十分理解した上で、参加すること。 実習中は、実習先企業担当者の指示に従って行動するとともに、安全対策には十分注意すること。			
〔到達目標〕 社会人・職業人として必要な考え方・態度を、実体験を通じて理解する。 職場グループの中で、十分なコミュニケーションのとり方を学ぶ。 就業の大切さを実感できる。			
〔評価方法〕 本人からの単位認定申請書（学科主任宛）の提出を受けて、実習先での学外実習修了証明書および業務日誌（50%）、学外実習報告書（25%）、および学内での報告会での発表（25%）の 4 点によって評価する。（4 点全て満たすことを合格の条件とする。）			
〔教科書〕 使用しない。事前の説明会において必要な資料等を配布する。			
〔補助教材・参考書〕 24 年度以前の実習報告書。			
〔関連科目〕 今まで学んだ全ての科目が関連する。また実体験をとおして今後学習する科目の位置付けを理解することができる。			

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	1. 実習時期 2. 実習期間 3. 実習の内容 4. 学外実習先 5. スケジュール	夏季休業期間中	
第2週		5日間以上にわたり，合計30時間以上従事	
第3週		設計，生産技術，生産管理，品質管理，実験および実験	
第4週		助手，機能・性能試験，販売，サービスなどの分野	
第5週		学科が認めた実習先(民間企業，研究機関，行政機関)	
第6週		5月 学外実習ガイダンス	
第7週		・ 概要説明	
第8週		・ 実習先企業の紹介と実習内容の説明	
第9週		・ 安全教育	
第10週		6月 事前研修会	
第11週		・ 希望調査と割り振り	
第12週		・ 学外実習の心構えなどの事前学習	
第13週		・ 講演会出席(外部講師)	
第14週		7～8月 実習	
第15週		・ 実習先でのオリエンテーション	
		・ 実習に従事	
		・ 日誌および報告書の作成	
		9～10月 学外実習のまとめ	
		・ 成果報告書の提出	
		・ 学外実習の成果報告会	
第16週			
第17週			
第18週			
第19週			
第20週			
第21週			
第22週			
第23週			
第24週			
第25週			
第26週			
第27週			
第28週			
第29週			
第30週			

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)